

<箕面市立萱野中央人権文化センター> 〒562-0014 箕面市萱野1丁目19番4号
 ■TEL(代)072-722-7400 ■FAX 072-724-9698
 ■MAIL info@raipi.org ■URL http://www.raipi.org/
 ●開館時間 午前9時～午後10時 ●休館日 毎週月曜日と年末年始
 ※月曜日に実施している事業もあります。また、月曜日が祝日の場合は完全休館になります。

施設などのご利用 (1F受付・事務所)



●お部屋と事務機器のご利用

部屋：会議室・多目的室・和室・音楽室・ホール・体育館ほか

時間：午前(9~12時) / 午後(13~17時)
夜間(18~22時)

料金：200円～
(お部屋と時間帯によって変わります)

*詳しくはお問い合わせ頂くか、ホームページをご覧ください

●印刷機のご利用

時間：9:00～21:00

料金：製版1枚 40円・インク代10枚4円・用紙1枚 0.9円～(持ち込みも可)

●コピー機のご利用

時間：9:00～22:00

料金：1枚 10円(白黒のみ)

◆TEL/072-722-7400 (火～日の 9:00～21:30)

相談窓口のご利用 (1F事務所)

(お気軽にお問い合わせください)

相談内容

- ①総合生活相談【人権・福祉・就労・その他】
- ②教育相談【奨学金・進路・その他】

時間

①火～土の 9:00～17:00

②火・木の 9:00～20:00

*上記以外の時間帯に関してはご相談ください。

◆TEL/072-722-7400

らいとぴあ21は「差別と偏見にとらわれることのない市民の幸福を追求する人権文化の推進を図る」という設置目的のもと、これまで市民と協働で事業をすすめてきました。

その使命を受け継ぎ、2010年4月から指定管理者として「特定非営利活動法人 萬らしづくりネットワーク北芝」がらいとぴあ21を運営しています。

これまで地域の暮らしづくりで培ってきた法人としての活動とノウハウを活かし、地域住民や利用者にとってさらに身近で様々なニーズに応えられる「らいとぴあ21」。

誰もが気軽に来館でき、市民とともにつくる「らいとぴあ21」。そんなふうにささえあい・おたがいさまの心を地域で育めるような場、拠点づくりをめざします。

図書館のご利用 (1F)



時間：火～日の 10:00～17:00

(第1金曜日はお休みです)

催し：青い鳥による『おはなし会』

…毎月第2土曜日 11:00～11:30 (無料)

*本によっては、図書館にないものをリクエストすることもできます

◆TEL/072-722-7195

子育て支援センター



『おひさまルーム』のご利用 (2F)

時間：月～金の 10:00～16:00

催し：オープンスペース(未就学児と保護者がプレイルームで自由に遊んでいただけるよう開放しています。)

月・木の 10:00～12:00

月～金の 12:00～13:00 【お弁当ひろば】

月～金の 13:00～16:00

毎月第4木の 10:40～11:10 【おはなし会】

*その他、年齢限定のオープンスペースなどは市広報に随時掲載します。

◆TEL/072-723-5433 <相談>072-721-8845

こどもの居場所・育成支援



『ぴあぴあルーム』のご利用 (1F)

時間：火～金の学校放課後～17:30

土・長期休みの 9:00～17:00 (月・日・祝休み)

*ご利用には登録が必要です。

*その他様々な事業を行っています(学習・スポーツクラブ・集団あそびプログラムなど)

◆TEL/072-722-7004 (9:00～18:00)



らいとぴあ ニュース



Raitopia21 news letter



発行/らいとぴあ21(箕面市立萱野中央人権文化センター) 発行日/2013年2月1日

No,20

P.2～4 <特集> 「男の幸せ」ってなんだろう。

P.4 図書コーナーおすすめの本 P.5 ぴあぴあ NOW! / おひさまルームプチコラム

P.6 コラム「1人親家庭の虹色人生」/利用団体紹介 P.7 あおぞら通信 / らいとぴあにいる「あの人」の素顔

2013年3月8日(金)

開場 18:30 講演 19:00～21:00 ※当日参加OK!

講師 大東貢生さん

らいとぴあ21社会問題連続セミナー

「オトコを科学する」
～男の幸せってなんだろう？～

詳しくは
4ページを
ご覧ください



「男の幸せ」ってなんだろう。

「男の幸せ」は、もちろん結婚して 家を買って 妻子を養うこと?
いやいや、これからの時代は イクメン 専業主夫 草食系男子??

3月のらいとぴあセミナーでは、社会における女性と男性の差(ジェンダー)について「男らしさって何だろう?」という疑問を問い合わせてきた大東寅生先生をお招きし、まだまだ語られることの少ない「男」という性にスポットライトを当てたセミナーを行ないます。

セミナーを前に、らいとぴあ界隈の若手の男たちで『男の幸せ』をテーマに、ビール片手に語り合ってみました。



らいとぴあ界隈の
若手男性たち
*仮名

●レイチャエル=22歳 未婚 ●セバスチャン=27歳 既婚 一児の父
●ワトソン=29歳 既婚 一児の父 ●ウィンストン=31歳 既婚

レイチャエル:
「男の幸せってなんだろう」というテーマでしゃべってみたいと思います。最近結婚した方やお子さんが産まれた方も多いので、その辺もお話しでもらえたらと思います。

セバスチャン:
そうか。結婚してるやつが多いんか。
結婚した男ほどおもんないやつしかおらへんで。なあ?男は結婚したら終わりや。

レイチャエル:
なにが終わりなんですか?(笑)

セバスチャン:
別に終わってないけどな。(笑)

やっぱり1人でいたときの方が自由気ままに自分の好きな時間に自分の好きなことをできるっていうのはやっぱりあると思うねん。
こどもちっちゃいから手がかかるし、見とかなあかんし。
それはそれでひとつの幸せのカタチかと思うけど、でもたまに1人で過ごす時間がほしい。俺は家でゆっくりテレビを一日ベッドに横たわりながら見る日が年に何回かほしいねん。

レイチャエル:
こどもがおったらそれはできへんと。

セバスチャン:
できへんっていうか、でき

るんやろうけど難しいねんするのが。だって嫁も同じやん?自分の時間がほしいっていうのは。男なんか、子育てでいうたら何の役にもたんから。

ワトソン:
たつたつ!
たってるたってる!(笑)

セバスチャン:
いや、ワトソンはたってと思う。俺はたってないと思う。(笑)

ワトソン:
でもそんなに幸せがあんねやろ?「男の幸せ」って聞かれたら、結婚することやったり子どもが生まれた

りとか、っていうことかな。
家持つとか。俺で言うと、子どももできて、家買って、家の力ギをガチャガチャってあけるときとかさ!あの音とかさ!なんか「あ~、これ幸せいな」って思ったりするねん。

セバスチャン:
ワトソンは甲斐性あるもん。
男は甲斐性やで。

レイチャエル:
甲斐性ってなんすか?具体的にどういうことがあったら甲斐性があるんですか?

セバスチャン:
まあ、世間一般に言ったら、やっぱり家を買ったら甲斐性があると言われるんちゃう?だって自分の城をもつわけやからね。どんだけかかろうが、ちっちゃかろうが…。

レイチャエル:
男性と女性の幸せに違いつてあります?
それこそ、家買うのが奥さんでも別にいいんかなとか思うけど、世間の目を気にはするかなって思う。

セバスチャン:
いいよ。それは別にいいよ。

レイチャエル:
でもそれは甲斐性ないってことになるんじゃないんですか?

セバスチャン:
それはまあ、世間一般で言つたらそうなるんちゃう?

ワトソン:
んー、その状況やったら公に言われへん気するよな。
男として。
男として…そうか、その辺が男なんかな。

ウィンストン:
そこなんやろな。レイチャエルが言いたいのは。

レイチャエル:
そう。なんで公に言えないんかな~と思って。

セバスチャン:
それはさ、昔からのさ…。
まあ自分の親を想像しても、男がたてられて女が支えるみたいな日本の文化みたいなんあるやん?ちょっと昔やったら女は男の三歩後ろ歩くみたいな。
世間的に、大黒柱って言うのはイコール男だったりするわけやん。そこにこだわる人はこだわったらしいし、こだわらんと、嫁はんが甲斐性あって家買うんやったら別に買ったらいと思うけど、世間の目を気にはするかなって思う。

レイチャエル:
それでいうとね。ウィンストンさんは、正直お金は少ない中で結婚しあったじゃないですか。お金のこと気にして結婚できない男性ってやっぱり多いと思うんですよ。

セバスチャン:
それはやっぱり気にするん

ちゃう?だってさ、金ってなかったら生きしていくのに困るやん。1人で食べていくんやつたらいいけど、2人稼ごうと思ったらなあ。お金が幸せに直結するかは人それぞれやけど、多くて困ることはないよな。

ウィンストン:
生活のこと話し合うときってやっぱり絡んでくるからな。お金のこと。
俺も多分どっかで引け目があるねん。

むこうの方が給料いいしさ、ほんまはトントンやつたらいいなと思ってるねん。そうじゃないとどっかで気使わねん。向こうはそれでいいって言ってくれてるねんけど、こっちとしては肩身がせまいというか。出してもらってる分これしようとか思ってしまうことも実際あって。「そんなんいいやん。将来逆になることもあるかもしれんやん。そんときは助けあつたらいいんちゃう。」ってことは言ってくれるけどな。

セバスチャン:
ええ人やな~~~!

ワトソン:
お金がないならないなりの幸せを見つけるって人もいると思うけど、それはやっぱり理想で、ないとやっぱりお互のストレスたまるし、発散できなかつたり、ほしいもの買えなかつたりするやん。そこでケンカとかは起きてくるやろなあ。

レイチエル：
無意識に男の方が稼がな！
っていうプレッシャーはないですか？

セバスチャン：
それはあるよ！
ある。あるなあ…。

レイチエル：
お金は生きていく上で、絶対必要だと思うんですよ。
でも、それを男性の方が稼がなアカンと思ってるんやったらそれって変じゃない」と僕は思います。

セバスチャン：
そやねん。変やねん。変やねんけど、でもそういう社会やねん…

この続きは、
らいとぴあセミナーで！
お楽しみに！

らいとぴあ 21 社会問題連続セミナー

「オトコを科学する」 ～男の幸せってなんだろう？～

- 2013年3月8日（金）
開場18:30 講演19:00～21:00
※当日参加OK！
- 場所 らいとぴあ 21・視聴覚室
- 参加費 無料
- 講師名 大東 貢生さん

一時保育あり（1週間前までに要申し込み）
性別問わず、参加歓迎！



『男ひとりさま術』中澤まゆみ /著 法研

この本は、アンケートをもとに、死別・離別・非婚シングルの男性を取り材し男ひとりの老後の経済的自立、精神的自立などに役立つスキル、情報が書いてある本です。

著者の中澤まゆみさんは、1949年長野県で生まれ、雑誌編集者を経てフリーランスになったかたです。人物インタビュー、ルポルタージュを中心に書くかたわら、アジア、アフリカなどを取材し、著書に『おひとりさまの「法律」』『ユリー日系二世NYハーレムに生きる』などがあります。

自立の基本は、食生活からということで、買い物の仕方から男性向け料理教室の情報まで幅広く書いてあり、健康面では、日常の健康チェックに役立つ健康ノートの作り方や 医者へのかかり方、がんや難病の闘病支援情報の探し方まで載っています。

定年後の友人の作り方やどうすればマダムのお茶会へ招かれるか、どうすれば若者との交流が取れるかなど多岐にわたって書かれています。

箕面市内の図書館に所蔵している本です。

シニアの男性のかたはもちろん、「男ひとりさま術」に関心のあるかたは、どなたでも手に取ってお読みください。



らいとぴあ21・ぴあびあルーム徒然日記



ぴあびあルームに関わって4年目の受付スタッフ「まゆちゃん」に尋ねました。

○最近のぴあびあルームは、
どんな様子ですか？

平日は宿題をする子が数人います。自分は受付（おもちゃ貸出しや貴重品管理など）担当ですが、「宿題一緒にやって」など言われると、状況が許せば対応します。受付に追われ宿題の部屋まで行けずにはいるとき、わざわざ受付机まで持ってきて、狭い机が子ども達4、5人鈴なりでてんやわんやな時

もありますね。

冬は「おにごしょ～」と外で遊んだり、女子のシール交換・ままごと、男女ともDSを囲んでというのが日常です。スタッフからSケンという冬によくやる集団あそびや、季節ものの工作やお楽しみ会などの企画も持ちかけられ、子ども達も楽しんでいます。

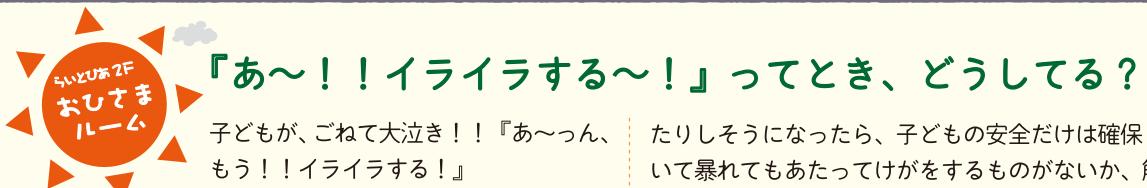
○4年間の中で印象的なことは何ですか？

大人と違って子どもは、気持ちを吐き出すのが難しいですね。私がぴあびあに関わったきっかけは、市のアルバイト求人登録からの紹介でした。当時子ども対応の仕事は初めてで、戸惑いが大きかったです。そんな私に子ども達から気軽に声をかけてくれ、助かった面もあります。

一方で、こちらからの声かけが子どもによっては逆効果な事もあったり、それぞれどんな子かな、と良く見守るようにしています。

例えば5年生でそっけなかった女子が、日々の声かけの積み重ねからある日恋ばなしで盛り上がり普段深刻な話をしたがらない子が、「友だちに嫌な事言われてな…」とつぶやいてたり、と心を見せてみると嬉しいですね。子どもなりにタイミングをはかって気持ちを伝えてくれるのだという事が、心に残っています。ふと、当時1年生だった子が、5年になり、成長を感じる事があり、自分も一緒に成長していきたいと思います。

語り / ぴあびあルームスタッフ
まゆちゃん
聞き取り / ぴあびあルームスタッフ
よっしー



子どもが、ごねて大泣き！！『あ～っん、もう！！イライラする！』何回言っても、いうことをきかない。『もう！いい加減にしてよ！』ついイライラして、子どもに大きな声で怒ってしまった…。夜、眠っている子どもの顔を見て『あんなに怒らなくてよかつたのに、ごめんね』と心の中で反省し、自己嫌悪…。このような経験が一度はあるのではないでしょうか。周りの人はみんな、穏やかに子育てをしているように見え、『自分だけがどうしてこんなにイライラするんだろう。』『自分はダメな親なのではないか。』と感じているというお話をよくうかがいます。みなさん、同じように思ったり、経験したりしていること。そんな感情と、どう付き合っていくのかが大事なのかもしれませんね。

子育て支援センターに来られている方たちの経験やおすすめ法を書いてみようと思います。

イライラして、大きな声を出したり、子どもをたたいたり

たりしそうになったら、子どもの安全だけは確保（泣いて暴れてもあたってけがをするものがないか、触っても危険なものがいるかなど）してから、

- ◆子どものいない場所（ちがう部屋、トイレなど）にいき、子どもと少し離れて気持ちを落ちつかせる。
- ◆ちょっとキッチンでコーヒーなどを飲む
- ◆子どものごねている様子を実況中継風に「おっと、寝転がって泣き始めました。次はおもちゃを投げています。さ～、いつまで続くのでしょうか。」と言いかながら様子を見ていると、客観的に子どもを見ることがビートアップしにくい。
- ◆音楽をならして、好きな歌を歌ったり、好きなダンスをする。

ちょっと気分をかえられる、自分なりの方法を見つけていくことが大切ですね。そして、子育ての楽しさを感じるひと時が少しでも増えたらいいなと思います。



おひさまルームの利用、
プログラム等は
こちらをご覧ください。

▶おひさまルーム ホームページ・<http://www.city.minoh.lg.jp/ouen/ohisama.html>
▶情報配信サイト「箕面市おひさまネット」・パソコンサイト <http://minoh-ohisama.jp>
・携帯サイト <http://minoh-ohisama.jp/m>

1人親家庭の虹色人生

<年間連載コラム> 特定非営利活動あっとすぐーる

⑥ 1人親貧乏でも、楽しい人生

丹 秀也 19歳 大阪大学 理学部 9歳の時に両親が離婚し、母子家庭で三兄弟の末っ子として育つ。
1ヶ月1万円生活実施中。

小学生の時に両親が離婚してから、僕は母子家庭で過ごしました。母子家庭というのは多くの場合貧乏らしいですが、僕の場合もやっぱりそこそこ貧乏でした。しかも悲惨なことに(?)子どもは男が3人。何が起きたかというと、経済状況を改善するために母は働きに出ていることが多くなった訳です。家にいるのは年が4つほど上の中学生の兄たちだけになりました。

かくして母子家庭の三男坊は、彼らと日常を過ごす時間が少々長くなっています。兄というのは自分より年上ですが、かといって大人でもない存在なので、ある意味では親よりも接しやすい相手です。つまるところ僕は彼らの影響を受けて、ほんの少し大人ぶった子どもになっていました。

そしてようやく、僕は「両親が別居している」ことの珍しさに気付いたのですが、最初に感じたのは虚しさなどではなく、周りと違うことへの妙な優越感でした。簡単に言うと「不幸な俺かっこいい」という少々イタイタしい思いです。

今思い出しても、もう残念な子としか言いようがありません。

それからまたしばらく経って中学に入ると、僕は「親の勝手で一人親家庭になるのは不公平だ」とも思うようになっていました。ですが、その理由で母と喧嘩したことなく、どこか他人事に感じていました。時間が経っていたおかげで、それが自分にとっての当たり前だったかもしれません。むしろ大体の喧嘩の原因は僕の部屋が汚いことでした。

高校に入る頃になって、父とも時々会うようになりました。数年間の隔たりはやはり大きく、また母の前で彼の話題を出すことは僕にとって完璧にアウトだったので、少なからず父に悪印象をもっていたことも確かです。今となってみると、親を嫌いになるのは子どもにとって不幸なのかもしれません。

お金のことが少々面倒だったりしますが、実際のところ何とかなってきたので、今のところ僕は幸せです。



▶特定非営利活動法人あっとすぐーる

「1人親家庭」という環境に関わらず、幸せを追求できる社会を創る」という目標のもと、学習塾(箕面市)と学童保育施設(豊中市)を運営中。
詳しくは、あっとすぐーる atto.school@gmail.com または 072-702-0020 まで。

らいとぴあ利用団体紹介 [北芝よみかき教室]

北芝よみかき教室は1970年につくられ、今年で42年目を迎えました。教室は、毎月第1と第2金曜日の夜7時30分から9時ごろまでしています。文字の学習だけでなく、社会見学、料理づくり、書初め、歴史旅行、紙すき体験などもしています。毎年地域のイベントにも出店しており、手間をかけて作った地域の伝統食を販売しました。

地域の小・中学校の先生がボランティアで講師をしてくれ、毎回漫才のような掛け合いから始まります。笑いばかりで勉強がなかなか進まない事もしばしばありますが、北芝よみかき教室は、これからも笑いあり、涙ありで頑張っていきます！



あおぞら通信

あおぞらでは、来ている人たち同士の交流だけではなく、地域の人との交流も大切にしています。

地域の人とつながるだけでなく、あおぞらへ来ている人のコミュニケーションの練習になったり、一緒に作業をすることで達成感を得られるなどの貴重な場面もあります。

そのひとつが、あおぞらの近くにある箕面東高校のボランティア実習の受け入れです。

PS(パーソナル・サポート・サービス)は箕面東高校とも連携しており、月に1回程度高校生が数人あおぞらに来て、ボランティア活動をします。

あおぞら内の掃除やペンキ塗り、花壇の植え替えや、お祭りに出すための米ぬかカイロの配合の手伝い、震災記事のスキャン作業など内容はさまざまです。

時には、あおぞらに来ている人が自分の得意な分野を活かして、高校生にどうしたら花がうまく成長するかなど、やり方を詳しく教えてアドバイスをしています。

高校生たちは実習が始まった最初は緊張していましたが、活動していくうちに、あおぞらに来ている人と

好きな事や興味のあることについて会話が弾んでいました。

実習が終わると、あおぞらに来ている人から「年代は全然違うけど、話してみると趣味の話で盛り上がったわ～。もっと話ができたらよかったな～」といったつぶやきも。

高校生にも、あおぞらに来ている人にとって学びの多い地域交流になっていると思います！！



箕面市パーソナルサポートセンター あおぞら

- 開所日時 火曜～日曜 10:30～16:30
- 〒562-0023 箕面市粟生間谷西 2-8-22-104
- 電話&FAX 072-747-5522
- ブログ <http://blog.zaq.ne.jp/aozora-ps/>

パーソナル・サポート・サービス(PS)とは？

生活中で何らかの困難を抱え孤立しつつある方に、就労や生活などの必要な支援プログラムを、パーソナル・サポートと言われる相談員が一人ひとりのニーズや状況に応じながら行う「寄り添い型・伴走支援」です。

「あおぞら」はその中の居場所機能として、気軽に立ち寄って相談したり、活動ができる場所です。

20年ほど前、箕面市女性施策係の嘱託員となつて以降、女性施策係→女性政策課→男女協働参画課と遷を重ねる時代の流れを、その渦中にあって体験してきました。「当時はまだ『女性問題』なんて言葉が横行していましたね。問題を起こすのは女性じゃなくて男性の方なのにね。」チラシにイラストを入れたいと思っても、男はネクタイ・女はエプロンみたいなステオタイプの絵ばかり。「仕方がないから自分で描いたんですね」と森さん。そこは高校時代にみつかり勉強した美術の腕が物を言って、「けっここう他からも引き合いが来た」とびきり輝いていました。

最後に絵画の話を伺いました。「はじめは色にもデッサンにも幅がなかったですね。高校のアトリエで特訓を受けるうちに、幅もでき、構成にも変化ができました。その変化は突然起きるんです。自分自身の枠がとっぱらわれて、新しい自分が発見できたような…」なるほど、人生と合意通じるものがありますね。笑顔が

素顔 NO.4

人権啓発推進協議会
森 幸子さん

らいとぴあにいる
『あの人』の
素顔



取材 / らいとぴあ21・桑高喜秋